

1. 内政

- ・5日、共産党は、レアンカ内閣の不信任決議案を議会に提出。コルマン議会議長は、同決議案は11日に審議される予定である旨発言。
- ・5日、憲法裁判所は、憲法と独立宣言の規定の間に差異がある場合、独立宣言が優先するとして、モルドバの言語はルーマニア語である旨結論。(注:国家の言語に関し、1994年の憲法ではモルドバ語、1991年の独立宣言ではルーマニア語であると規定されている。)

2. 経済

▼マクロ経済

- ・3日、NGO「Transparency International」は、毎年、腐敗レベルの見通しについて専門家の評価や意見調査によって決定しており、2013年の透明度国際腐敗見通し指数についてモルドバを177ヶ国中102位とした旨発表。同指数は、権力の乱用、極秘取引及び賄賂が世界中の社会を破壊し続けているとの警告を示しており、すべての政府のレベルで、未だ腐敗の脅威にさらされている旨発表。

3. 外交

▼ケリー米國務長官の来訪

- ・4日、ティモフティ大統領は、コルマン議会議長、レアンカ首相、ゲルマン副首相兼外務・欧州統合相及び与党連合3党首等とともに来訪したケリー米國務長官と会談し、同長官のモルドバ訪問は政府及び国民が民主主義の道を進む強い契機となる旨発言。同長官は、米国はモルドバの欧州統合路線を全面的に支持する旨表明し、モルドバ政府に対し民主的改革的の継続を呼びかけ。

▼アントネスク・ルーマニア上院議長の来訪

- ・4日、コルマン議会議長は、来訪したアントネスク・ルーマニア上院議長と会談し、両国議会間協力、モルドバ・EU関

係、モルドバの国内情勢等に関し協議。アントネスク議長は、ルーマニアはモルドバの欧州統合路線を支持する旨発言。

- ・5日、ティモフティ大統領は、アントネスク議長と会談し、モルドバの欧州統合路線に対するルーマニアの支援に謝意を表明。双方は、議会レベルにおける両国協力等に関し協議し、アントネスク議長は、連合協定が仮署名されたことに祝意を表明。

- ・5日、レアンカ首相は、アントネスク議長と会談し、エネルギー、運輸及び教育分野における計画、モルドバの欧州統合路線の進展及び地域情勢等に関し協議。

▼その他

- ・5日、ゲルマン副首相兼外務・欧州統合相は、キエフで開催されたOSCE外相理事会に出席し、沿ドニエストル紛争解決に向けたモルドバの優先課題及びモルドバの欧州統合プロセス等に関し発言。同相は、同機会にウクライナ、スイス、セルビア、ノルウェー及びGUAM外相との会談を実施。
- ・6日、バブク文化相は、モルドバとルーマニアの「男性クリスマス・キャロル」のユネスコ無形文化遺産への登録が決定した旨発表。

4. 沿ドニエストル

- ・6日、OSCE外相理事会は、キエフで開催された理事会本会議において「沿ドニエストル問題解決のための5+2フォーマット交渉プロセスの枠組みにおける政治問題に関する常設理事会の取組に関する閣僚声明」を採択。

5. 防衛

- ・1日、マリヌツァ国防相は、ルーマニアを公式訪問、ルーマニアの国民の祝日における軍事パレードに出席。
- ・2日、マリヌツァ国防相は、ドゥサ・ルーマニア国防相と会談、軍事部門における機密情報保護に関する協定及び軍事教育分野における協力に関する協定に署名。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。

(了)